

林野庁長官賞

木材の高付加価値化、品質管理の徹底で産地間競争に打ち勝つ
地域産カラマツ活用集成材で住宅部材を

株式会社ウツティかわい (代表取締役 澤田 令)

□事業体の構成

9名

川井村 宮古地方森林組合 川井地区製材加工協同組合

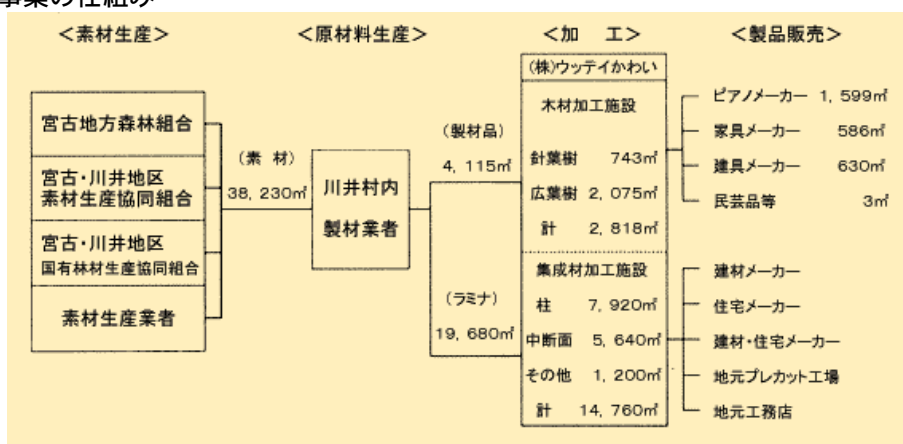
製材業者3 林家3名

〒028-2302 岩手県下閉伊郡川井村大字川井第6地割35

TEL 0193-76-2324 FAX 0193-76-2588



□事業の仕組み



1 地域の概要

川井村は岩手県北上山地のほぼ中央に位置する山村で、村の総面積563km²の92%が森林である。

村の基幹産業は農林業であり、高冷地野菜、葉タバコ、短角牛飼育、チップ用材生産、針葉樹間伐を組み合わせた農林畜複合経営が主体となっている。

村の森林面積5万6,307haの54%が民有林46%が国有林であり、人工林率は38%と県平均の44%を大幅に下回っているが、これは製炭利用後の広葉樹林がチップ用材として利用されつづけていることや、北上山地東斜面の風土

(寒風害、水分不足など)に制約されて針葉樹、特にスギの造林がなかなか進まなかったからである。したがって、民有人工林面積の51%がアカマツであり、次いでスギ(25%)、カラマツ(23%)である。人工林の多くは除間伐期にさしかかっているため、宮古地方森林組合が高性能林業機械を導入して林産事業の拡大に積極的に取り組んでいる。

2 事業内容

(1) 事業の目的

地域の豊富な森林資源を高次加工することにより付加価値を高め、資源の有効活用、林業林産業者の所得の向上と若者の就労の場を安定確保を図り、地域林業の活性化を促進する。

(2) 事業の内容

木材加工施設ではブナ、カバなどを原料としたピアノの部材が生産され、わが国大手の楽器メーカーに納入されている。その後、地元の豊富なカラマツ資源を有効利用するために、ピアノ部材の生産で蓄積された高度な人工乾燥技術とプレス技術をもとに、平成10年からはカラマツ集成材の住宅部材製造も開始されている。集成材加工施設は、日本で初めてのカラマツ小・中断面専門工場として平成9年暮れに完成し、月に700~800m³の製品を生産しているが、1~2年後には月産1,000m³程度を見込んでいる。主要生産品目は平角、10.5cmと12cmの管柱、ツーバイフォーの部材がそれぞれ3分の1ずつで北陸、関西の一部、関東、東北の商社、大手ハウスメーカーなどに納入されている。

3 施設の整備状況

【木材加工施設】平成4年

作業用建物(1棟920m²)
 製品保管倉庫(1棟800m²)
 管理棟(1棟179m²)
 製造用機械一式27種類(NCルーター、レーザー加工機、集成材プレス、モルダー、コッピングマシン他)

【集成材加工施設】平成8年~平成10年

作業用建物(1棟2,983m²)
 製品保管倉庫(1棟1,200m²)
 乾燥施設一式、製造用機械一式(全自動プレス、ジョインター、モルダー幅ハギ、チェーンコンベア)等

4 事業の実績

種別	年間生産計画量	平成7年度	平成8年度	平成9年度	備考
木材加工品	2,818	967	1,187	2,507	
構造用集成材	14,760	-	-	-	10年度から生産開始

5 事業の成果

川井村が目指している地場産業育成による村の雇用の場の創出に大きく寄与している。現在木材加工施設には約20名、集成材加工施設には約10名の従業員がいるが平均年齢は約30歳と若く、村の高校からの新卒採用者も少なくない。

木材加工施設では、地域外に流出していた広葉樹材に地元で付加価値をつけて販売する仕組みをつくり、集成材加工施設では、人工林のカラマツの有効利用に先鞭をつけたという点で高く評価できる。岩手県には機関造林で植栽されたカラマツの資源が膨大に存在しており、この利活用は県の林業の死活問題であった。

このカラマツの有効利用を実現したことは大きな成果であり、他の地域に与える波及効果も大きいと思われる。

6 今後の取り組み

集成材加工施設における現在の月産700~800m³の体制を1~2年後には月産1,000m³程度へ引き上げ、製品の品質・規格を統一するためにJAS認定を取得するほか、独自に性能検査機器も整備していく。また、製品の新たな販路としての地場需要を開拓するために、自社製品である構造用集成材や内・外装材を使用した木造の展示・販売促進施設を設置し、製品のモデル展示を行うと共に商談、製品説明会に利用する。